柏市図書館のあり方（案）

平成 30 年 12 月 20 日

柏市教育委員会

目　次

・はじめに　P.1
・基本理念　P.2
・基本方針　P.3
・子ども　P.4
・つながり　P.5
・地域　P.7
・施設・職員　P.8
・課題　P.9
・協働でつくる図書館　P.11
・資料編
　１．検討のプロセス　P.12
　２．いただきましたご意見　P.16
　３．その他資料　P.27
　　(1) 図書館の概要
　　(2) 蔵書の配置状況
　　(3) 図書貸出状況
　　(4) 分類別蔵書構成比
　　(5) 貸出利用者の地域分布
　　(6) 複本に関する資料
　　(7) 柏市立図書館資料収集方針（抜粋）
　　(8) 柏市立図書館寄贈資料に関する取扱い基準（抜粋）
　　(9) 書店からの図書購入について

はじめに

いま社会は、人生100年時代を迎えようとしており、人工知能（AI）等の新しい技術が日常生活や企業等に浸透し始めるなど、社会の大転換期を迎えています。

また、これまでの成長型社会から、成熟型社会という名の縮小社会に進んでおり、自治体の財政も厳しさを増していきます。多様化する価値観を尊重しながら、様々な人の結びつきや学び合い、知識や経験の共有を通じて、未来を創る活動につなげていくことの必要性が一層高まっていくものと考えます。

このような社会の変化に合わせて、図書館も変わらなければなりません。未来の社会で求められる新しい機能を担うとともに、図書館の持つ資料についても、単純に利用者が求める資料を収集するのではなく、厳選された多様な資料を収集・提供するとともに、大切な地域の資料を市民の共有財産として未来に引き継いでいかなければならないと考えます。

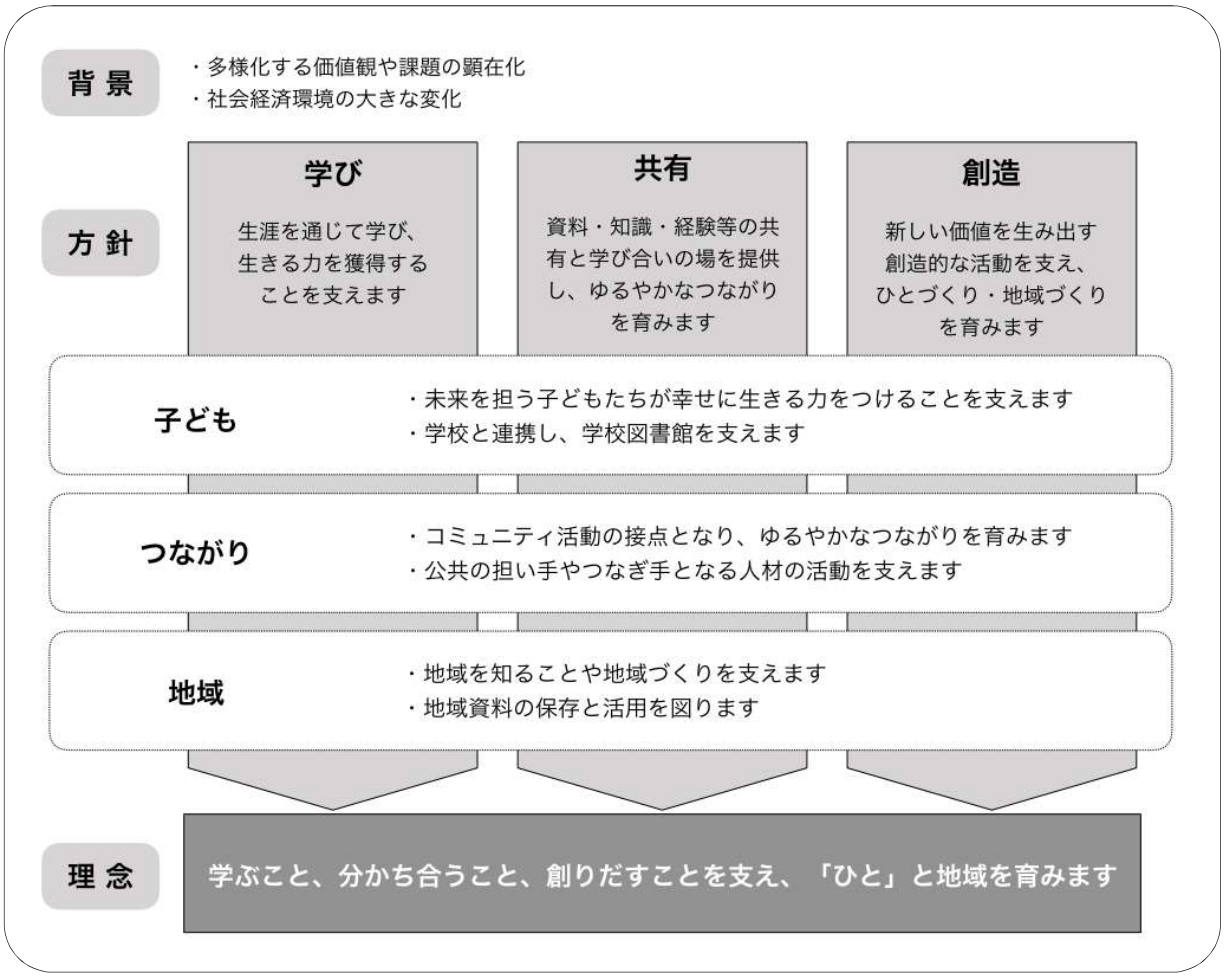
この「柏市図書館のあり方」は、今後の図書館像やその運営をするための理念や方針を示すものです。そして、基本理念で掲げた「学び・共有・創造」の活動は、市民の主体的な参加があって初めて実現するものと考えています。

この先も、次の世代も、多様な市民が生き生きと暮らし、魅力あふれる地域であり続けるため、このあり方の実現に向け取り組んでまいります。

基本理念

学ぶこと（学び）、分かちあうこと（共有）、創りだすこと（創造）を支え、

「ひと」と地域を育みます



基本方針

１．学び

生涯を通じて学び、生きる力を獲得することを支えます

これからの長寿社会においては、生涯を通じて学び、必要な新しい知識や技能を習得することが求められます。加えて、予測困難で複雑な社会の中で、図書館は、将来について考えるための情報に触れ、人生の可能性を広げ、生きる力や幸せをつかむ力を養うため、ひとりで学び、他者と学び合える環境を提供します。

２．共有

資料・知識・経験等の共有と学び合いの場を提供し、ゆるやかなつながりを育みます

図書館の持つ資料を市民全体で共有することはもちろん、個人がそれぞれ持つ知識や経験を共有する役割や、学び合いと創造的な活動の成果を共有する役割を担います。これらの活動を通じて、多様な市民のゆるやかなつながりを育みます。

３．創造

新しい価値を生み出す創造的な活動を支え、ひとづくり・地域づくりを育みます

多様な資料と市民が持つ様々な情報や知恵が集まる図書館で、人と情報、人と人が出会い、学び合うことで新しい価値を創造することを支援します。そしてこの創造的な活動は「ひとづくり」につながり、生み出される様々な新しい価値は、地域をより良いものにしていくと考えます。

子ども

◆ 未来を担う子どもたちが幸せに生きる力をつけることを支えます

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものとし、人生をより深く生きる力を付けていく上で欠くことのできないものです。

図書館は、子どもに読書体験を提供し、発達や学びの連続性を踏まえた支援をすることにより、読書習慣や読解力を育みます。また、子どもの読書習慣の獲得には、家庭の協力が不可欠です。保護者に対しては、子どもの読書活動への理解や関心を高める役割を果たします。

未来を担う子ども達が、幸せに生きる力を養い、多世代交流や子ども司書活動などを通じて、自分が必要とされていると感じる「自己有用感」を獲得することを支援します。さらに、遊びや体験を通じて、考える力・工夫する力・創造する力を養うことを支援します。

◆ 学校と連携し、学校図書館を支えます

図書館は学校図書館の支援も重要な業務であり、図書の貸出、お勧め本リストの配布、子ども司書会議、ビブリオバトル（知的書評合戦）等の事業を行っています。

近年、調べ学習など学校図書館は子ども達の学習に不可欠なものとなっており、学校図書館にない資料でも、必要な時にすぐに手に入ることが学校現場では求められています。資料の配送期間短縮を図るためにも、分館と学校図書館の配送ネットワークの一本化と連携を進めます。

また、子ども司書活動や、調べ学習等の子ども達の学習成果の発表の場として分館を活用し、地域交流・多世代交流を通じて、子ども達の「自己有用感」の獲得を目指します。

学校図書館との連携をさらに進めるためにも、お互いの現場をよく知ることが重要であると考えます。学校図書館の視察・見学、担当者会議、合同研修、人事交流などを検討します。

子どもの生活の大きな部分を占める学校との連携をさらに進め、子どもの読書環境の充実を図っていきます。

つながり

◆ コミュニティ活動の接点となり、ゆるやかなつながりを育みます

本市では、多様なコミュニティ活動が主体的に行われ、新しいことに挑戦する積極的な市民や事業者が多く活躍し、まちや地域の活力や賑わいを生み出しています。

地縁的なコミュニティだけでなく、プロジェクトごとに関心のある市民や事業者が、必要に応じて集まるネットワーク型コミュニティも次々に生まれており、これらを生み出す「ひと」や、地域を支える「ひと」こそが、図書館が注目すべき「柏らしさ・柏の特長」だと考えています。

しかし、コミュニティの中にいる人同士の連絡・連携は強固ですが、個々のコミュニティ同士のつながりは十分ではないと考えます。図書館は、個々のコミュニティ同士の接点となる機能を担います。

また、様々な理由から現在はコミュニティ活動への参加を選んでいない市民や、コミュニティ活動への興味・関心はあるが、参加の「きっかけ」が無かったり、参加の方法が分からないという市民（控えめな市民）も多いと考えています。図書館は、コミュニティ活動とこのような「控え目な市民」との接点となるような敷居の低い場や、行動をおこす「きっかけ」の場となり、「ゆるやかなつながり」を形成する機能を担います。

「ゆるやかなつながり」やこのつながりから発展するコミュニティ形成を促すために、市民・市民団体・NPO 団体・民間事業者・専門機関・行政機関との交流を促すワークショップ等の開催支援や、市民主体のプロジェクトの支援を行います。図書館の中だけでなく、積極的にまちや地域に出ていき、新しい関係を築きながら活動します。

◆ 公共の担い手やつなぎ手となる人材の活動を支えます

これからは、行政だけが公共の役割を担うのではなく、市民や事業者など地域の様々な主体が、公共の担い手として活動することが求められる社会になっていくと考えます。図書館は、「公共の担い手」となるような市民の活動を支援するとともに、そのような市民の交流の場となります。さらに、市民が社会のために役に立ちたいと思った時に、一歩を踏み出すための情報やコミュニティとの接点

となります。

　また、図書館や市民の持つ資料や情報、地域の文化資源等を媒介として、本館や分館での活動、学校や学校図書館、地域活動との連携を進めることのできる「資料や情報・人・コミュニティのつなぎ手」となる人材の育成やその活動の仕組みの構築も検討します。

地　域

◆ 地域を知ることや地域づくりを支えます

図書館は単独で存在するものではなく、地域とのつながりにおいて、その機能を発揮するものだと考えます。図書館は、自分が住んでいる地域を知り、地域に関心を持つ人を結びつけ、必要な情報の提供や学び合いと創造的な活動を支援することで、より良い地域づくりに貢献します。

子ども達が、生まれ育った柏市を「ふるさと」と感じてもらえるよう、子ども達が地域を知る活動を図書館は支援します。地域の活力には子どもの存在が不可欠であり、地域と子どもの交流機会の創出にも貢献します。

◆ 地域資料の保存と活用を図ります

柏の地域資料を保存し、活用することは、柏市でしかできない事業です。特に柏市の発展と重なる近現代の地域資料は、いま急速に失われています。この資料を保存・編集し伝えていくことは、本市の図書館が積極的に担うべきものと考えます。

そして、現在も市民活動やコミュニティ活動に積極的な市民や事業者が柏市の魅力を次々に創造しています。これらの活動の記録と保存を行い、市民と共有するとともに、広く市内外に発信していくことも図書館の役割であると考えます。

また、本市には様々な分野に詳しい市民が多く住んでいます。その知的創造活動によりつくられた資料は、柏市の貴重な地域資料となります。市民と協働してこれら資料の保存や活用の取り組みを検討します。

施設・職員

◆ 施設（空間）

図書館は、世代を超えた多様な市民が学び合い、集う人から刺激を受け、様々な情報を共有することで、知的好奇心が生まれる場や新しい価値の創造の場、知的活動の成果を伝える場、生み出された情報を保存し共有する場となります。

その前提として、多様な市民が訪れる開かれた場であることが必要です。市民が憩い、会話をしたり、出会いや交流の機能があり、子どもたちの居場所となり、ひとりで学んだりグループ学習ができ、ワークショップの場になるなど、多世代の多様なニーズに対応できる空間も必要です。また、例えば、子育ての悩みを相談できたり、子育ての楽しさを共有できることも求められています。図書館は静寂な場所であるとのイメージも変えていく必要があると考えます。

さらに、乳幼児から高齢者まで多世代の市民が利用できることはもちろん、様々なハンディのある人や文化・言語の異なる外国籍の人でも利用できる施設である必要があります。

図書館には、居心地の良さや敷居の低さなど、多様な市民が集まる仕掛けが必要だと考えます。

◆ 職員

これからの図書館職員には、これまで以上に地域と市民をよく知るとともに、市民やコミュニティの知的・創造的な活動を支えるための専門的な能力が求められます。また、従来からのレファレンス能力に加えて、変化する社会に即した多様な専門知識や、関係機関や市民との関係性を構築するコミュニケーション能力や調整能力、政策立案能力も求められます。司書の資格を持つ職員だけでなく、様々な能力を持つ職員や、異なる分野で経験を積んだ職員を配置し、理念実現のために取り組みます。

また、時代に合わせた専門性を発揮できるよう、図書館職員の人材育成の方針等についても検討します。

課　題

１．財源と業務効率化

「人口減少（生産年齢人口減小）や経済縮小による税収減」と「民生費や公共施設の更新費用の増大」により、自治体の財政は将来的に厳しさを増していきます。これからは、人口増加と経済成長により増加する税収を原資に、行政サービスを拡大することができた時代の考え方からの転換が必要です。

施設の更新・統廃合・長寿命化などを検討する際には、将来の人口動態や財政規模を踏まえて、「あれもこれも」ではなく、持続可能な計画とすることが不可欠であると考えます。

また、日々の運営に関しても、定期的に業務の評価と見直しを行い、ICT 化とデータに基づいた運営により、定型業務については徹底した業務効率化を進め、専門業務や新しい機能への取り組みに割く時間を増やしていかなければなりません。

２．資料収集

幅広い情報を提供するため、多様なジャンルの資料、個人では購入困難な高額な図書、書店やネット通販での購入が難しい雑誌や書籍、最新の情報が必要とされる資料の更新などを重視するとともに、地域の図書館として、柏市に関係する資料を網羅的に収集し、市民の共有財産として未来に引き継いでいくことが重要であると考えます。

また、図書館以外でも手にする機会の多い新刊のベストセラー書籍等の複本を大量に所蔵することは、特定の書籍に限りある予算や限りある所蔵スペースを使うことにより、本来市民が手にできる資料との接点を失わせてしまうことにもつながるため、複本の抑制が必要と考えます。

なお、利用者からの要望や利用が多ければ複本を揃えるという方針は、著作者、出版社、書店の利益を損なう可能性があることも無視できないと考えます。

児童書についても、保管スペースを考慮しながら学校等への団体貸出用の資料を切り分けたうえで、複本冊数を抑制し、多様なジャンルの図書を揃えるべきと考えます。

今後は、資料収集方針等の見直しや、貸出冊数や利用者数に代わる成果指標の検討を進めます。

紙媒体の資料だけでなく、デジタル資料の取り扱いについてもさらに検討します。

３．　図書の分散問題と本館・分館の役割について

現在の蔵書 92 万冊のうち、22 万冊が 7 箇所の書庫、58 万冊が 17 箇所の分館に分散しています。分館には市内に 1 冊のみの図書も多く配架されており、例えば 3 万 6 千冊の蔵書がある南部分館では、その内の 1 万 2 千冊の図書が市内に 1 冊のみとなっています。

図書館の特長は、網羅性と専門性であり、資料同士の関係性を発見できる物理的な空間を持ち、体系的な知識の提供ができることだと考えます。現在は図書が分散していることによって、この特長が発揮できていません。また、図書の分散により配送業務も非効率となっています。

図書館の特長を活かすために、市内で最も規模の大きい本館には、調べ物ができるよう、必要な調査や学習のための資料を集中的に配架することを検討します。

また、分館については、多世代の地域の方が出会い、交流できる「つながりの場」と考え、地域のコミュニティ形成の機能を担う場となることを検討します。

４．分館の方向性

本市の図書館数は、本館と分館を合わせて 18 館です。これは政令市を除く自治体の中で、富山市の 25 館、松戸市の 20 館に次ぐ数字であり、国内有数の分館数となっています。一方で、その規模（床面積）は 200 ㎡前後であり、貸し出し以外の機能を担う余地が少ない状況です。近年、他の自治体で整備されている分館の多くが 500 ㎡以上となっていることを考えると、「小さい分館が数多くある」ことが本市の特徴となっています。

施設数が多いことは運営コストに直結する問題であるため、全国の自治体では、将来の厳しい財政状況を見据えて、公共施設の集約化と複合化が進められているところです。図書館についても例外ではなく、長期的な視点から検討していかなければなりません。

分館に関する先行事例としては、特に人口減少が進む地方において、学校の中に公立図書館の分館を整備し、一体化して運営する取り組みがあげられます。いま全国の学校では、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える取り組みや「学校を核とした地域づくり」を目指す取り組みが進められていることもあり、地域とのつながりの場（接点）として図書館が求められているものと考えます。

本市の人口動向については、2010 年に 54,835 人いた 0 歳から 14 歳の人口が、2050 年には 43,510 人まで減少する見込みとなっています（柏市第五次総合計画【本冊版】P.16）。これにより小中学校の空き教室活用の可能性も出てくるものと考えます。

一方で、人口急増期に整備された学校は老朽化が進んでおり、計画的な建て直しや長寿命化が進められるため、その整備の際に分館と一体化できる可能性も考えられます。

利用状況のほか、今後 30 年の長期的な財政状況等や先行する自治体の調査研究を踏まえながら、各分館と近い距離にある公共施設の更新計画と併せて、継続・廃止・隣接する分館との統合・学校等との複合化など様々な選択肢を検討していきます。

協働でつくる図書館

本市の図書館利用カードの登録率は年々低下を続け、現在2割を下回っており、市民の図書館離れが進んでいます。インターネットによる情報検索が容易になり、情報を得る目的での図書館利用も減少していくものと考えます。

社会が大きく変化するなか、これからの図書館は、多様な市民に利用されることはもちろん、社会にとって役立つ存在とならなければならないと考えます。図書館を利用することによって生み出される新しい価値は、市民と地域のために不可欠であると広く市民から評価されることが求められます。

また、市民に必要な情報は、資料の中だけにあるものではありません。市民一人ひとりが持っている知識や経験が、他の人に循環し、受け継がれ、その知識が活用されることも重要です。市民の積極的で主体的な参画により、図書館は情報と情報、情報と人、人と人をつなぐ場となります。

そのためにも、市民も図書館の所有者・運営者であるという認識のもと、行政と一緒になって図書館をつくり上げていくことが求められています。図書館はレファレンスなどのサービスや運営の情報を広く市民に発信・共有するとともに、市民・市民団体・NPO団体・民間事業者・専門機関・行政の関係部署と積極的に連携します。

資　料　編

検討のプロセス

これまで、次のとおり検討を重ね、幅広い年齢層や様々な場で活躍する市民の皆さまのご参加をいただき、貴重なご意見をいただきました。また、多くの市民の皆さまへ、図書館への関心と図書館のあり方を検討していることを知っていただくため、情報発信を積極的に行いました。

１．未来の柏の図書館について語り合おう！（全５回）

市民活動・コミュニティ活動に積極的な市民の皆さまは、現在の図書館にはどのような課題があると考えているのか、また、未来の図書館に何を求めているのか。活動の拠点に訪問し、ワークショップ形式でご意見を伺いました。

(1) 平成30年7月29日（日）パレット柏／市民活動の拠点／23名
(2) 平成30年8月9日　（木）Noblesse Oblige（Nob）／コワーキングスペース／7名
(3) 平成30年8月19日（日）手作り科学館Exedra／大学院生や社会人が作った科学コミュニティの場／5名
(4) 平成30年9月19日（水）UDCK（柏の葉アーバンデザインセンター）／公民学連携によるまちづくりの拠点／16名
(5) 平成30年10月9日（火）高柳コミュニティカフェ「茶論（さろん）」／地域の多世代交流の場／8名

パレット柏

手作り科学館Exedra

UDCK（柏の葉アーバンデザインセンター）

２．柏駅ダブルデッキ・ライブラリーフェス

市内で最も人通りが多いと考えられる、柏駅東口のダブルデッキを会場に「柏駅ダブルデッキ・ライブラリーフェス」を開催しました。

このイベントの中で、現在図書館を利用していない方も含めた幅広い市民の方へ、「図書館の基本機能にプラスして求める新しい機能とは？」と題し、シールアンケートを行い、市民の皆さまが求める図書館の新しい機能について調査を行いました。また、併せて図書館に馴染みのない市民に、図書館を味わっていただく各種企画を行いました。

日　時：平成 30 年 10 月 5 日（金）、6 日（土）
シールアンケート回答者：164 名
自由意見回答者：33 名

※図書館体験企画
シールアンケート、高校生ビブリオバトル、絵本の読み聞かせ、ブックコーティング体験
自動貸出機等の体験会、クロストーク（柏市在住の学芸員とのトークショー）
司書の選んだ本の展示　　etc.

３．未来の柏の図書館像を考えるワークショップ（全 4 回を予定）

(1) 中高生ワークショップ

中高生は普段どこで過ごしているのか、そしてどのような居場所を求めているのかを切り口に、中高生にも愛される未来の図書館像を考えました。

日　時：平成 30 年 10 月 7 日（日）
場　所：パレット柏
参加者：6 名（中学生 1 名、高校生 5 名）

(2) 第1回ワークショップ

「まちから考える未来の柏の図書館像」をテーマに、年齢や立場の違う参加者が一緒にまちを歩くことにより、<私>だけの要望ではなく、<私たち>の課題の発見や新しいアイデアの創造を行い、さらに議論を深めるための材料出しを行いました。

日　時：平成30年10月20日（土）

場　所：柏市まちづくり公社及び柏駅周辺

参加者：9名

(3) 第2回ワークショップ

「図書館からうまれるわたしたちのストーリー」をテーマに、未来の図書館ではどんな活動が展開されているか、ストーリーボードを使い物語を作りました。様々な物語を参加者で共有し、未来の図書館のイメージをふくらませました。

日　時：平成30年11月11日（日）

場　所：アミュゼ柏

参加者：11名

4．柏市立図書館協議会

(1) 平成30年度 第1回

日　時：平成30年8月9日（木）

場　所：柏市役所本庁舎　第5・6委員会室

内　容：情報提供（公共施設の老朽化と再整備、人口減による財政縮小、図書館での新しい取り組み　等）

意見聴取

(2) 平成30年度 第2回

日　時：平成30年10月24日（水）

場　所：柏市まちづくり公社

内　容：進捗報告

意見聴取（複本、学校図書館との連携・支援　等）

５．情報発信

今回の検討の報告や進捗については、市のホームページの他、Facebook や Twitter でもお知らせしています。また、紙媒体では進捗状況等をお知らせする「かしわストーリー」を作成し、市内 30 箇所以上の施設で配布を行いました。

(1) 柏市ホームページ（「柏市図書館のあり方」の策定について）
http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/280700/p046994.html

(2) Facebook
https://www.facebook.com/kashiwa.futurelibrary/

(3) Twitter
https://twitter.com/kashiwa_futurel

(4) かしわストーリー
第 1 号　平成 30 年 9 月 6 日（木）発行
第 2 号　平成 30 年 10 月 15 日（月）発行
第 3 号　平成 30 年 11 月 2 日（金）発行
第 4 号　平成 30 年 12 月 19 日（水）発行

かしわストーリー第１号

いただきましたご意見

これまで参加者の皆さまから様々なご意見をいただきました。ここにご紹介できたものは、いただきましたご意見の一部です。市のホームページ（巻末参照）に全ての報告書等を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

≪図書館運営全体に関するご意見≫

・一部の市民しか使っておらず、多様性がない。色々な職業や年齢層の人がいれば、本だけでなく、そこに集まる人からも学ぶことができる（パレット）

・書店との違いとして「共有の場」であることが大事（パレット）

・図書館はシェアリングエコノミーの大元として可能性がある（Nob）

・柏でのビジネス、小商い、生業を支える図書館（Nob）

・図書館本館の2階に行くと、特定の男性たちが使っている景色が目に入る。パレット柏も高校生の勉強の場として定着している。そういった特定の利用者像と結びつかない場所に図書館がなれば、個人的には使いやすくなるのではないかと思う（Exedra）

・図書館は図書館としてしっかりしてもらいたい。図書館像が色々と語られる現状で、色々な要望を聞きすぎると、本来の図書館のあり方がぼやけてしまうのではないか。図書館本来のあり方を追求すれば自然とエッジの効いた図書館になるはずだ。柏市の図書館は他にはない、代替性のないものになって欲しい（Exedra）

・40万人の市民がいるなかで、どこのニーズに特化していくべきか。それが決まれば柏市の特徴となるだろう（Exedra）

・ルールの少ない図書館になるとよい。今の図書館には禁止事項が多い（Exedra）

・本を読む場所、借りる場所だけでよいのか。様々なニーズを満たす場所、「きっかけ」づくりの場所となるとよい（UDCK）

・移動図書館を使ったアウトリーチに取り組んでいる図書館（UDCK）

・周りの人とおしゃべりができて、気楽に過ごせる場所。ふらっと入りたくなるような、快適だと感じてもらえるような場所となって欲しい（高柳）

・読書離れとIT化が進んでいる現状に図書館は対応できているのか。現在の機能のままの図書館であれば、この先の時代には不要となる（高柳）

・専門性の高い司書の手助けを得られること（パレット）

・分館にも本のことがわかる司書が必要（フェス）

・IT化により司書の役割が広がっている（高柳）

・司書の専門性を教えて欲しい。レファレンスを尋ねる発想がなかった（Exedra）

・これからの図書館員はもっと外に出なければいけない（フェス）

≪知的活動に関するご意見≫

・挑戦を促す場所であってほしい。自分で買えない難しい本が読めるだけでなく、講座やイベントを開くことで、学び直しや、起業への挑戦を応援することもできるはず。学びのセーフティネットとなってほしい（パレット）

・ただ本があるのではなく、人と本がつながり、人と人がつながる、人と本（資料）のネットワークの場、何か新しいことが生まれる場であること（パレット）

・知識を得るだけでなく、課題の作成や発表の準備までできるとよい。市民の研究等の成果を伝える場としての図書館の可能性（Exedra）

・いまの中高生は、学校で調べ学習やグループ学習によるアウトプット型の教育を受けてきているが、学校以外にこれを実践できる場がない。（中高生 WS）

・スポーツ活動（部活動）と比較して、知的活動の場やその成果を発表する場所と機会が少ない（中高生 WS）

≪資料全般に関するご意見≫

・今の図書館はただ本を並べているだけではないか。蔵書の整理が必要。取捨選択をしてスペースを確保したい（Nob）

・調べ物をするときに、参考資料が各分館に散らばっており利用しづらい（UDCK）

・数が多いだけでなく、質のいい蔵書があると人が集まる（Nob）

・専門的なものも含めて、調べたいものが何でも一通りあること。ネットの情報の原典を調べられ、掘り下げていける場所（Exedra）

・必要な書籍を書店で買い揃えるとかなりの金額になる。多様な分野の本が一箇所にあり、関連する領域を、あっちに行ったり、こっちに行ったりして、関係性を発見していけるのは、物理的な空間を持つ図書館の特長だと思う。網羅性と専門性が書店との違い。点の情報ではなく関係性の可視化が大切（Exedra）

・図書館に求めるのは、仕事で必要な本、調べ物の本。柏市の図書館にはそのような本が少ないので使っていない。小説などは自分で買っている（Exedra）

・専門書が少ない。仕事をしている人は専門書を読みたいと思う（UDCK）

・紙媒体以外を置く必要はないのか（UDCK）

・デジタル資料の充実した場所（フェス）

・ちゃんと本をそろえて守る。貸し出しをする。その基本のために予算を使いなさい。それが図書館です（フェス）

≪図書館協議会での複本に関する意見≫

・児童書については、どの時代でも読み継がれる本がある。これについては蔵書が多くて良いと思う。一般書については、話題になった本に偏ると推測する。一時期のブームであるならば複本を少なくして、予約を待ってもらう方向にしてもよいのではないか。（協議会②）

・「母と子のつどい」では絵本が必要であり、読み聞かせに必要な本がいつでもあることは子育て支援の観点からはありがたい。（協議会②）

・リクエストは特定の人に偏っていないか。同じ人の要求が繰り返されていないか。多様な層からのリクエストを受けることが大事ではないか。その中で複本が増えることは致し方ない。（協議会②）

・小学校では子ども達にアンケートを取りリクエストを聞きながら精選している。人気シリーズについては多めに置いているが、それだけではなく、頻繁に図書室通いをしている子どもは深い本を手広く読んでいるので、そのような子どもの少数意見も大切にしている。（協議会②）

・学校図書室での選書には神経を使っており、年に何度も選書リストを持ち寄って話し合っている。限りある予算の中で、調べ学習の本であっても同じ本ばかり揃えられないので、グループ単位で 6～8 冊揃えている。課題図書は年によって変わるので翌年は読まれない。色々な本を揃えたいので、学校では複本を良しとしていない。（協議会②）

・やはりすぐに手に入るとありがたいので複本が良くないとは一概に思わない。リクエストの多いものに対しては沢山揃えて欲しいと思う。（協議会②）

・子どもは読みたい本はすぐに読みたいだろうから複本は必要だと思うが、大人は少し我慢してもいいかと思う。（協議会②）

・複本に関しては町田市の件でマスコミが一時騒いだが、現在は沈静化している。出版社による新刊についての問題も沈静化している。児童書や学校で利用するような本は一か所で揃えられず大量に必要とされる場合もあるので、そのジャンルの複本はあってしかるべきと考える。文芸書についても闇雲に揃えるのではなく、厳選していくべきものと考える。（協議会②）

・保護者が図書館へ行きたいと思えるよう、ある程度の料理本やハウツーもの等もそれぞれ揃えていくというのも間違いではない。（協議会②）

・購入と寄贈を分けて考えることについては、県南の図書館ではベストセラー的なものは寄贈募集をよびかけているように、市民が市民に還元していく流れをつくってもよい。（協議会②）

・複本がすべて悪いわけではなく、ものによってよいもの、わるいものがある。多くの資料を揃えるのは当たり前である。（協議会②）

・（事務局作成の先進自治体との比較資料は）新しく大規模に図書館を作ったところが多いのでないかと思った。柏市と同様に予算も書庫もないが古くから細々とやってきて、そういうところで利用を伸ばしている図書館と比較することも大切でないかと思う。（協議会②）

・複本については児童書と一般書を分けて考えないといけない。児童書は評価の定まったロングセラーが多い。子ども達が来た時に手に取れるということを実現しているので、児童書の複本が多い事はよいことだと

思う。一般書は児童書と違いロングセラーのものだけではなく多様性も大切になるため、複本をどれだけ揃えるかは迷う。我孫子市では１３万都市、３分館で１０冊まで購入し、寄贈をＨＰで呼びかけている。ブームが過ぎて無駄になるかもしれないが、分館数を考えると柏市の複本の購入上限２０冊は多すぎるわけではない。一般書については、買えばいい、と考える方も多くいるが、家にも本がいっぱいなので何ヶ月であろうと待って図書館で読み、本当に良ければ買いたい、という使い方をしている人もいる。回転数も多く、柏市で２０冊というのは無駄ではないのではないか、と考える。（協議会②）

≪地域資料に関するご意見≫

・地域の文化資源を扱う総合的な機関となってほしい。本と博物館を融合させた、新しい展示や見せ方を示して欲しい（パレット）

・個人では集められないような資料を集めて欲しい（地域の昔の写真・航空写真）（高柳）

・郷土の歴史について一番詳しい場所（Nob）

・柏市の歴史を体系立って知ることができる場所（UDCK）

・まちのアーカイブ資料としての図書館（UDCK）

・郷土資料へのアクセス。もっとデジタル化が進むとよい（Nob）

・図書館が郷土資料館や博物館と連携し、ＡＩを活用して、文化を情報としてタブレット端末で見られるようにすることにより、それを通して多くの人が興味を持てば、実物を見よう、とかお年寄りの話を聞こうとかにつながっていく。モノとしての文化が失われていくなか、それを受け止めるのが図書館。失われていくモノを保存できるのは今ではないか。活用できる技術をどんどん活用し、破損し失われていくものを伝えていくことが大切と考える（協議会①）

≪市民活動・コミュニティ活動・交流に関するご意見≫

・世代を超えてコミュニケーションが取れる世代間交流ができる図書館。幅広い人々が出入りできる場所（UDCK）

・地域コミュニティを活かし、地域に必要とされるような複合的な要素が必要（高柳）

・いまの図書館は個人利用しかできない。グループ学習ができるスペースも必要（UDCK）

・母親たちのコミュニティの場になって欲しい（パレット）

・図書館プラスアルファ―（ホール、学習スペース、趣味の部屋、ミーティングスペース、ワークショップスペース、イベントスペース）があると、まちのコミュニティ活動がさらに活発化する（UDCK）

・語り合いや対話ができる場所（高柳）

・本以外のもの（日常でたまに必要となる芝刈り機などの道具、ボランティア活動を支える設備・備品、宿題で使うミシンなど）を貸して欲しい（高柳）

・様々な背景を持つ幅広い年齢層の大人や、自分達より年下の子ども達との交流や活動を通じた学びの機会がない（友達・親・先生が中心の世界）（中高生 WS）

・参加のハードルが低い「集える場」と「つながる場」が必要ではないか。点と点を見える化してつなげる工夫が必要ではないか（WS①まち歩き）

≪子ども・学校連携に関するご意見≫

・図書館には子どもを本に親しませるために行く。目的があっていくのではない。いまは、子どもが自分で読みたい本を借りているだけで発展性がなかったり、親の好みで子どもに本を選んでいて、次にどんな本を選んであげたらよいか迷うことがある。本をすすめてくれるプログラムやアドバイスがあれば使ってみたい（Exedra）

・子どもにプロの演劇や人形劇を見る機会を！都内ではそのようなイベントが行われている。ミニシアターなど、子どもがワクワクできる場所が欲しい（フェス）

・子どもと親がくつろげる場であること（Nob）

・保育園、幼稚園、学校等と連携し、図書館に行かなくても学校で図書館の本が借りたり返せたりできるとよい。遠くまで歩いていけない子どもたちが、自分が通う学校でさまざまな本を借りることができる（UDCK）

・低学年の子や未就学児はお母さんと来るので、母親がアクセスしやすい場所にあることが大切。駐車場は必須（高柳）

・中高生がたまれる場所がないので、彼らの居場所（サードプレイス）としての役割も期待したい（パレット）

・中高生がお金をかけず安心して過ごせる居場所が少ない（保護者も安心できる居場所が必要）（中高生 WS）

・Exedra に来る子どもたちも、ネットで調べることが多いので、本で調べる方法を教えてくれるプログラムを提供してほしい（Exedra）

・行き場のない子どもたちもいるはず。そのような子どもたちの居場所になってほしい（UDCK）

・大人向けのスペース、子ども向けの児童室と分けるのではなく、大人も子どもも気兼ねなく一緒に楽しめる図書館だと、家族全員で楽しめる（UDCK）

・子どもたちの将来や仕事について考える場として図書館を位置づけてはどうか（高柳）

・いまの子育て世代や子どもたちは、とにかく忙しいので、コミュニティカフェや土曜ひろばにも、だんだんと子どもが集まらなくなっている。同じ講座ばかりで子どもが飽きてきてしまっている可能性もあるので、これまでとは違う形で多世代交流ができるアイディアを図書館から提供してもらえるとよい。たとえば、ロボット教室等をやったときは、子どもたちもよく集まってきてくれていた（高柳）

・いまの子どもたちは、テレビやインターネット、ゲームに時間をとられている。大人も一緒に楽しめるような機会や場所があるといい。子どもと大人が一緒にできることを探していけるといい（高柳）

・田中分館の田中スタンダードを、地域での交流に生かしている。今後もこういう分館を増やし、地域の人と交流を深めて欲しい。（協議会①）

・今後子ども司書の取組みを広げて、希望者を増やしたい。そのためには、学校の中で図書館の利用方法や意味を変えていく必要がある。以前は図書室は読書をする場所だったが、今は調べ学習が主流になっている。これからは異年齢での交流、子ども司書活躍の場になっていくと考えられる。現在の子ども司書の活動は学校それぞれで特色を発揮してやっているが、図書館職員と学校が、どういう活躍の場があるのか一緒に考えていただける機会があるとよいと思う。子ども達は図書館は読書をする場所と思っており、それだけではないということが現場に伝わっていない。発信されていても学校現場に伝わっていない現状。図書館と学校現場がどのように話をしていくか、どのように繋がっていくかということが大きな課題でないか、と思う。発信していても伝わっていないということであればもったいないので、学校に来ていただくとか、学校の様子を見ていただく等の活動が図書館と学校の交流には効果的だと思う。（協議会②）

・学校図書館と市立図書館との連絡は電話ではなくメールでのやり取りがよいと思う。書面の方が間違いがない。調べ学習の本は学校図書館でも用意するが、市立図書館でも更に購入をお願いしたい。日本語を母国語としない子どもが増えている。英語だけではなくアジア各国から来ているので各言語の本があればよいと思う。デイジー図書の充実もお願いしたい。このような本は学校図書館で揃えるのは難しいので図書館で揃えて欲しい。（協議会②）

・学校図書館でこども達が読書活動をスタートさせ、将来にわたって図書館を利用する、調べたいことを調べられる力を付けるきっかけになってほしい。学校図書館を通じて、市立図書館や分館をスムーズに使えるようになることが大切である。授業の中で図書館での調べ方やリクエストのやり方を教えるとか、まち探検時に端末画面での予約してみる、などちょっとしたとっかかりを繰り返すことによって、自分でできる、という体験をすれば。個人個人が学校図書館や分館をとおして図書館と近くなれるのでは。（協議会②）

・子育てにつながる場所が見つけにくい。若者の居場所があるようでない（WS①まち歩き）

≪分館に関するご意見≫

・規模の小さな分館が多数ある。集約すべきではないか（Nob）

・分館がたくさんあるが、特徴や魅力に乏しい（パレット）

・分館は書庫になっている（高柳）

・分館は子どもを連れていきやすい場所にある。読み聞かせや子育て支援の場としての機能を充実してほしい（パレット）

・分館を充実させてほしい。量の問題ではなく質の問題であり、現状の分館は手狭すぎる（パレット）

・施設が古くなって空間に余裕がなくなっている。子どもが寝そべって本を読むようなスペースをいまの施設に期待するのはむずかしい。分館のスペースも限られているので、ゆったり過ごせるスペースがどこにもないのが課題（Exedra）

・各近隣センターに図書室があるのが良い。子育て中は助かる（フェス）

≪その他のご意見≫

・20 年後、30 年後に向けた展望がない（パレット）

・政策的な投資が欠かせない（Nob）

・新しい図書館のビジョンと一緒に、貸出冊数ではない新しい評価指標も確立してほしい。そうでないと、いままでと同じような図書館になってしまう。（Exedra）

※その他、本館や分館の建て替え・リニューアル・新設、大型化、複合化、サービスポイント（受取・返却窓口）の設置、市内 10 駅・コンビニ・商業施設等への返却ポストの設置、開館時間の延長、夜間受取、蔵書の充実、ICT 化（IC タグ、自動貸出機、Wi-Fi）、カフェの導入、飲食の容認、図書分類の改善などについても多くのご意見をいただきました。

≪柏駅ダブルデッキ・ライブラリーフェス　シールアンケート結果≫

10 月 5 日(金)、6 日(土)に開催した「柏駅ダブルデッキ・ライブ ラリーフェス」では、より幅広い市民の皆さまに「柏市図書館の あり方」策定のプロセスにご参加いただくことを目的に、シールアンケートを実施しました。 結果は次の通りです。

(1) ローカルベース　65 票
柏市の情報と人が集まり賑わうところ

(2) リトリート　57 票
なんにもしないで、心と体をリフレッシュ

(3) ミライへ　57 票
子どもたちを見守り、未来へつなぐ

(4) カルチャーコモンズ　51 票
興味や関心を、発信して共有する

(5) 書斎　50 票
ひとりで仕事や創作に集中する

(6) コラーニング　41 票
みんなで同じ場を分かち合い、共に学びあう

(7) 日常の安心安全　35 票
災害の記録を保存して日頃から備える

(8) ゲームセンター　31 票
遊ぶように学んだり、遊びながら学んだり

(9) ギフト　28 票
与えられるだけじゃない、つながる場所

(10) ガレージ　27 票
自分で使う情報やモノを自分でつくる

(11) コワーキング　26 票
事務所や会議室を共有しながら働く

(12) 編集室　24 票
資料の提供だけじゃなく、情報の発信もできる

「地域の情報や人が集まるコミュニティのハブとしての図書館には、本を借りる目的がなくても、自然と市民が集まって思い思い に過ごす中で、自然と多世代交流が生まれ、柏市に愛着やプライドを持った次の世代が育っていく・・・」そんな図書館像の一端が垣間見られるような投票結果となりました。

≪第 2 回ワークショップで作成された未来の図書館のストーリー≫

（学び）

・10 代の男子。大学受験に失敗して浪人生。家の経済事情で予備校に行くことができないので、普段は家で勉強しているが、ときどき気分転換もしたいと思っている。自転車で行ける距離に、カフェが併設された図書館があって、100 円でコーヒーを飲みながら、本を読んだり、勉強したりできる。図書館に来ると他にも真剣に勉強をしている人がいて、カフェエリアでそういった人たちと話すと刺激も受けるし、気分転換もできて、また、頑張ろうと思う

・中学校の教員。職場の学校は市民センターと同じ建物で、図書室も共通になっている。図書館の司書が、調べ物学習や読書活動をサポートしてくれるのだが、同じ施設なので相談しやすい。図書室で読書だけでなく、工作やプログラミングもできるので、いろんな子どもたちがやってくる

・柏市内で働いている 20 代の男性。今の仕事にやりがいを見出せず、転職を考えているが、具体的にやりたいことが見つからない。受験勉強で使っていた図書館に久しぶりに行ってみたら、資格の取得講座や転職セミナーがたくさん開催されていて驚いた。まちづくりや地域の活性化を行う NPO の採用情報が目に入り、思いを巡らせた。テラスから見えるまちの緑を眺めながら、ほっと一息

・結婚を機に柏に引っ越してきて３年の３０代主婦。毎日図書館に通っている。図書館では、料理教室やダンス教室が行われていて、友達に会いに行く感じで通っている。講座が終わったらカフェでランチして本を借りて帰ろうかな、と思っていたら、職員さんに本を勧められて、ついついそこで読んでしまった

（子ども）

・幼児と若いお父さんとお母さん。休日は親子でまったり過ごしたい。お金のかかる施設に毎週行くのは経済的に無理。図書館に行くと、お父さんは自分の趣味の雑誌や本をチェックしたり、お母さんはママ友同士でおしゃべりしたり、育児本や絵本をチェックできる。そのあいだ子どもはボランティアの中高生たちが、他の子たちと一緒に面倒を見てくれる。その中高生たちも、小さいときに図書館で遊んでもらって楽しかったから、自発的にこのボランティアに参加してくれている

・子育て世代の 40 代のパパ。妻に続いて育休を取得して慣れない子育ての毎日。図書館に行くとおはなし会をやっていて、参加してみたら面白かった。自分も読み聞かせに興味が出たので聞いてみると、読み聞かせサークルが図書館で活動していることがわかったので、今度は参加してみようと思う。パパ友もみつかりそうだ

・子育て世代の夫婦。誰かに子育ての悩みを相談したいけど、どこも敷居が高くてなかなか気軽にできない。そんな時に図書館に行ったら、子育ての悩みを相談できるスペースがあって、専門知識を持った方にフォローしてもらえた。また、子どもスペースがあって、託児をお願いできたので、子どもを気にすることなく相談に行くことが出来た。サークルに所属したり、公園デビューしたりはハードルが高くて堅苦しいけど、ここなら気軽にまた来れる

・両親が共働きの小学３年生。図書館は学校の隣にある。学校が終わると図書館に行って宿題をやったり、友達と遊んだり。図書館にはお菓子やお茶があって楽しい。しかも、本を読むのに飽きたら、図書館に設置されてるボルダリングやジップラインを楽しめる！人気でいつも待つけど、それでも好き！

・柏在住の中学 3 年生。高校受験を控え何となくゆううつな毎日を過ごしている。将来は本に関わり、クリエイティブな仕事に就きたいと思っている。ある日、柏の図書館に行ったら、ブックフェアがやっていた。日本の出版社だけでなく、海外の出版社もブースを出していた。他に、作家や画家によるトークイベント、サイン会が行われていた。そのような本に関する情報にたくさん触れる時間を過ごすうちに、これまで以上に本と関わる仕事について知りたくなった。

（多世代・交流・共有）

・30 代子育て中のママ。日々、育児に追われて自分の時間を持てない。図書館に行って子供に本の読み聞かせをしたり、自分もいっぱい読みたいけど、本を汚してしまうことが気になったり、子どもが騒いで落ち着かないし、授乳も頻繁にしなきゃ･･･と集中できないから最近は行っていない。今度、新しい図書館の計画を市がしているみたい。そこでは、子どもが走っても騒いでもある程度はＯＫで、ママ友同士でおしゃべりしてもＯＫ。そして、オシャレなデザインで、保育コーナーもあって・・・毎日の子育て中心の生活から一瞬時間を忘れられるような非日常の空間で、リフレッシュできる図書館になってほしいな。そして、子育て世代だけではなく、色んな世代が年齢を超えて交流できる場所がこの街には無いから、日々子育てに追われて他の世代の感じていることが分からないので、お互いに共有できる機会がある場所だと素敵だな。本だけでなく、五感が刺激されて、普段図書館に行かない親子や若者も来るような機能があったらさらに最高！

・今から 10 年後の 4 人家族のお話。柏市に全国初の図書館が入ったリゾート型複合施設「手賀ライブラリー・ファウンデーション」が完成した。ここは宿泊施設もあり、この泊まれる図書館で夏休みの 3 日間を過ごした。まず、施設に入ると、Wi-Fi につながったＡＩ端末が渡された。そして、この端末を使ったＡＩコンシェルジュによる仕事や宿題のアドバイスが受けられた。日中には、毎日全 50 種類の講座やワークショップが開かれており、お父さんは仕事関連や市民活動関係のアクティブラーニングにエントリーした。施設には、暖炉のある居心地の良い空間があり、そこでは自然と周りの人と語り合える雰囲気だった。施設内のデジタルアーカイブ室で検索してたら、亡くなったおじさんのメッセージが保存されているのを発見。夜は、その声を聴いて涙を流したりした。あっという間の大変充実した 3 日間の滞在を終えて、家族は帰路に着いた。

・平日は朝から夜遅くまで仕事漬けの４０代会社員。晴れた休みの日は公園に。雨の日の行き場がなく困っている。そこで、久しぶりに図書館に行った。子供は図書館の本を読んだりし、自分はワーキングスペースでネットや雑誌から情報収集。少し疲れたので図書館で行われているヨガに参加。日頃の疲れが癒される。買い物帰りの妻と合流。地元の会館が戦時中に弾薬庫だったというニュースを聞いたので、図書館でもう少し調べてから帰ろう

・65 歳で雇用延長も終えて晴れて悠々自適の毎日。本好きなので図書館にでかけると、居心地の良い閲覧スペ

ースで心いくまで読書ができる。心が満たされると、まだ誰かの役に立てそうな気がする。情報スペースに行くと、自分にもできそうなボランティア情報が掲示されていた。詳しい話をコーディネーターさんに聞いてみるつもりだ

・豊四季台団地在住、80 代の独り暮らしの女性。足腰も弱って、目も疲れやすくなったけれど、歩いて行ける距離に図書館があって、健康のためにも歩いて出かけていく。目が悪くても、オーディオブックの使い方を職員さんが教えてくれるので、新たらしい情報が得られて、認知症の予防にもなっていると思う。なにより、友だちも図書館に来るので、話し相手もできて寂しくなかった

・インターネットなど情報が多い社会の中で、情報を受け取るばかりでアウトプットする場がないと思っていた。そんな時に図書館に行ったら、学生たちが自分の意見を述べ、学生たちが自分の親世代や祖父母世代の多世代が交流できる機能があった。そこに、子育て中のママ世代も気軽に参加できる仕組みにもなっていて、今まで感じたことが無い「私にも出来る」が味わえる場所だった。それらの機能に加えて、本があることで、本から得る気づきが、考え方やものの見かたが変わるきっかけを与えてくれている場になっている

（創造）

・市内の高校に通う吹奏楽部の 2 年生。柏の図書館は、「音楽の街かしわ」と言われる街の図書館にふさわしく、楽譜や演奏指導などの音楽関係の資料が充実しているうえ、音楽知識豊富な職員が調べものの手助けをしてくれる。そして、色んな吹奏楽団が演奏した録音データもアーカイブされている。資料以外にも楽器の貸出を行っていて、色んな楽器を試奏できる。また、演奏用のスタジオも図書館にあるから、練習場所にも使える！図書館のエントランスホールは演奏に適した造りになっていて、定期的にアンサンブルのミニコンサートが開かれている。私ももっと練習して演奏がうまくなりたいから図書館をうまく使っていきたいし、アンサンブルにも加わってみたい思っている。

・生まれも育ちも柏の 30 代後半。大学から柏を離れ現在は都内在住。時々実家に帰省するが柏に愛着はない。子供を連れて久しぶりに実家に帰省した際に久しぶりに柏の図書館に行ってビックリ。広々とした館内に、本が見やすく並び、図書館職員も生き生きとレファレンスしている。子供が草花の本を探していると、職員が色々提案してくれた。おまけに、広場で開催中の自然フェスティバルのガイドも行ってくれた。広場への導線には地元のお店が出店していて、一日中楽しめた。柏に戻ってくるのも良いかな、と少し思えた

・柏市内の高校に通う２年生。学校の課題で、柏の戦後の歴史を調べて発表することになり、先生に柏駅前の図書館を勧められたので行ってみた。図書館は地域の歴史博物館の機能があって、展示を見ると、戦後の柏の移り変わりと現状が分かった。図書資料は大変充実していて、利用者と資料を繋ぐコミュニケーターというスタッフがいて、調べ学習が捗った

・市内の中学生。紙の本が少なくなり、一人一台タブレットを持つ時代になった。紙の本が無い電子図書館に行き、世界中の本をタブレットで読むことが出来る。そして、自分のタブレットで作成したものを図書館に置くことが出来る。図書館が、データセンターとしての役割を持つ時代になった

・図書館に行ったら、夢中で何か調べものをしている人がいる。すごく気になって、ついつい声をかけてしま

った。その人は興奮しながら「今、大発見をしたんだ！！」と語りだした。話を聞いていると、とても興味深かったので、みんなの前で発表しては、と提案し、そこから周囲にいた市民と共に即席のレクチャー（講演会）が開催され、その人に大喝采が送られた

その他資料

１．図書館の概要

(1) 図書館の概要

・昭和 29 年　柏市立図書館　開館

・昭和 49 年　豊四季台分館が開館

・昭和 51 年　現在の本館に移転・開館

～以降、昭和 54 年から昭和 62 年にかけて、13 の分館が開館～

・平成 17 年　沼南町との合併により、2 つの分館が加わる

・平成 20 年　こども図書館　開館

(2) 施設の概要

館　　名	面積（㎡）	開館年月日	館　　名	面積（㎡）	開館年月日
本　　館	2,005	S 51.　3.　2	新 富 分 館	165	S 57.　5. 14
豊四季台分館	198	S 49. 10. 22	高 田 分 館	137	S 58.　4. 16
田 中 分 館	172	S 54.　5.　1	根 戸 分 館	118	S 58.　4. 12
西 原 分 館	105	S 54.　5.　1	新田原分館	110	S 59. 10.　6
南 部 分 館	191	S 54.　5.　1	松 葉 分 館	205	S 62. 10.　3
布 施 分 館	196	S 55.　5. 21	藤 心 分 館	147	S 62. 10. 17
永楽台分館	132	S 55.　5. 21	沼 南 分 館	380	S 53.　4.　1
増 尾 分 館	168	S 57.　1. 12	高 柳 分 館	127	H　7.　5. 10
光ケ丘分館	187	S 57.　5. 19	こども図書館	473	H 20.　8.　8

(3) 図書購入費の推移（予算額）単位：千円

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
64,023	58,895	52,945	52,945	49,712	49,738	50,131	50,067	50,830	48,542

※平成 30 年度予算の減額は、建物の改修工事を予定している南部分館分を減額したもの。

(4) 経費(平成 29 年度決算額より算出)　　（平成 30 年 4 月 1 日現在常住人口　422,385 人）

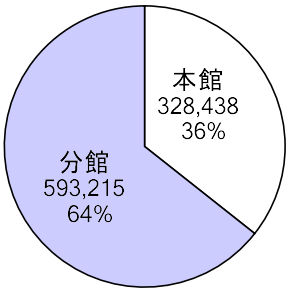
※図書館に係る経費	人件費	合計（A）	総貸出点数（B）
247,017,263 円	168,820,581 円	415,837,844 円	2,131,673 点

貸出 1 点あたり（A/B）の経費	市民一人あたり（A/422,385 人）の経費
195 円	984 円

※ブックスタート事業（191,443 円）及びプラネタリウム事業（1,172,076 円）を含む

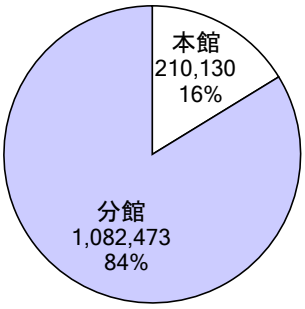
２．蔵書の配置状況（平成 27 年度データから作成）

蔵書数（92万冊）

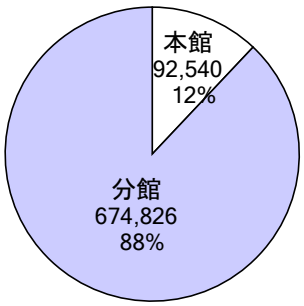


３．図書貸出状況（平成 27 年度データから作成）

貸出数（一般書・129万冊）

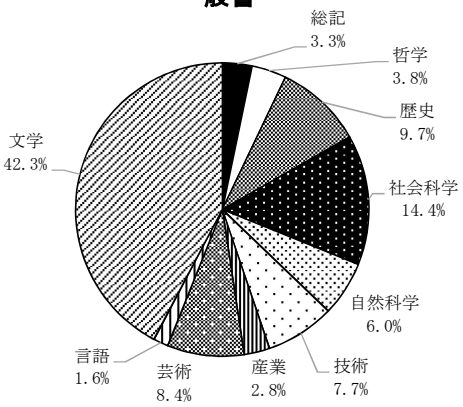


貸出数（児童書・76万冊）

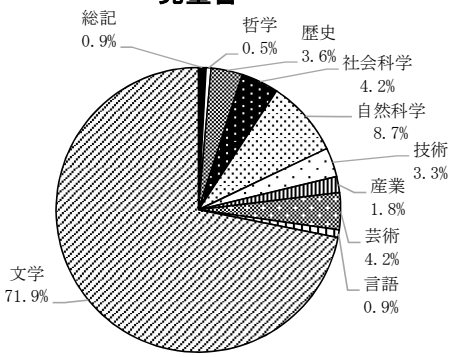


４．分類別蔵書構成比（平成 28 年度データから作成）

一般書

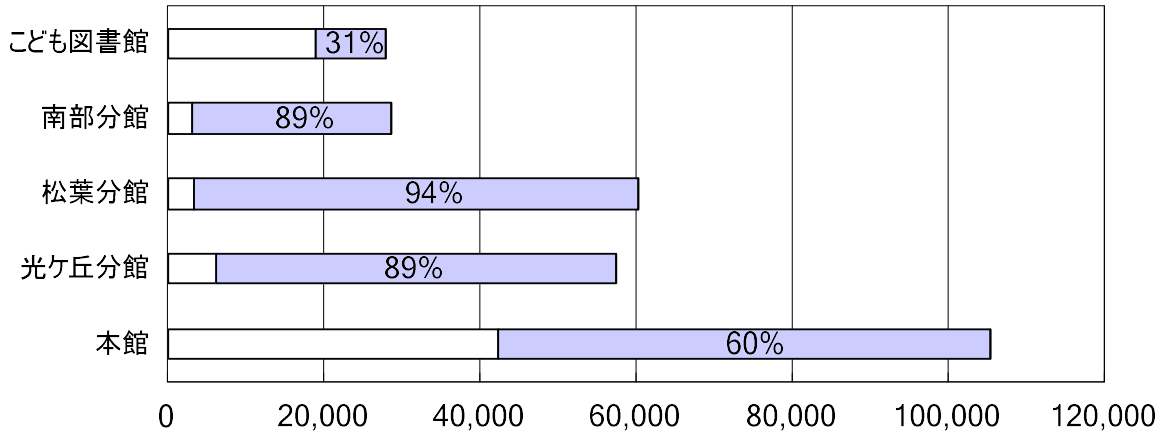


児童書



５．貸出利用者の地域分布（平成 28 年度データから作成）

（網掛け：半径 2km 内大字居住者の貸出冊数割合）



※分館利用者の約 9 割は近隣住民。こども図書館は広域から利用者を集めているが、本館利用者の 6 割が近隣住民となっており、広域から利用者を集められていない。

６．複本に関する資料

(1) 年間貸出上位 20 タイトルの貸出回数と複本冊数（平成 28 年度）

一般書ベストリーダー（平成29年度図書館年報から）

順位	図 書 名	著 者	出 版 者	回 数	複本冊数
1	旅立ノ朝　書き下ろし長編時代小説	佐伯　泰英／著	双葉社	479	26
2	竹屋ノ渡　書き下ろし長編時代小説	佐伯　泰英／著	双葉社	473	27
3	火花	又吉　直樹／著	文藝春秋	470	32
4	村上海賊の娘　上巻	和田　竜／著	新潮社	467	28
5	虚ろな十字架	東野　圭吾／著	光文社	458	23
6	祈りの幕が下りる時	東野　圭吾／著	講談社	455	26
7	銀翼のイカロス	池井戸　潤／著	ダイヤモンド社	446	25
8	豆の上で眠る	湊　かなえ／著	新潮社	421	20
9	村上海賊の娘　下巻	和田　竜／著	新潮社	420	25
10	流	東山　彰良／著	講談社	408	25
11	夢幻花	東野　圭吾／著	PHP研究所	406	25
12	人魚の眠る家	東野　圭吾／著	幻冬舎	403	23
13	リバース	湊　かなえ／著	講談社	399	20
14	終わった人	内館　牧子／著	講談社	398	20
15	山女日記	湊　かなえ／著	幻冬舎	396	21
16	荒神	宮部　みゆき／著	朝日新聞出版	384	22
16	サラバ！　上	西　加奈子／著	小学館	384	22
18	悲嘆の門　上	宮部　みゆき／著	毎日新聞社	378	18
19	悲嘆の門　下	宮部　みゆき／著	毎日新聞社	374	18
20	教団X	中村　文則／著	集英社	373	20
				8,392	466

児童書ベストリーダー（平成29年度図書館年報から）

順位	図 書 名	著 者	出 版 者	回 数	複本冊数
1	ねないこだれだ	せな　けいこ／さく・え	福音館書店	904	123
2	しろくまちゃんのほっとけーき	わかやま　けん／著	こぐま社	850	103
3	ぴょーん	まつおか　たつひで／作・絵	ポプラ社	828	133
4	だるまさんが	かがくい　ひろし／さく	ブロンズ新社	807	76
5	だるまさんと	かがくい　ひろし／さく	ブロンズ新社	796	60
6	だるまさんの	かがくい　ひろし／さく	ブロンズ新社	761	68
7	そらまめくんのベッド	なかや　みわ／さく・え	福音館書店	749	70
8	がたんごとんがたんごとん	安西　水丸／さく	福音館書店	741	122
9	はらぺこあおむし	エリック＝カール／作・絵	偕成社	719	82
10	わにわにのおふろ	小風　さち／ぶん	福音館書店	707	68
11	ぼくのくれよん	長　新太／おはなし・え	講談社	692	71
12	きんぎょが　にげた	五味　太郎／作	福音館書店	683	94
13	うずらちゃんのかくれんぼ	きもと　ももこ／さく	福音館書店	675	100
14	ぐりとぐら	中川　李枝子／さく	福音館書店	663	87
15	たまごのあかちゃん	かんざわ　としこ／ぶん	福音館書店	643	90
16	うみの100かいだてのいえ	いわい　としお／作	偕成社	638	37
17	おおきなかぶ　ロシアの昔話	A.トルストイ／再話	福音館書店	631	76
18	おばけのてんぷら	せな　けいこ／作・絵	ポプラ社	630	61
19	ノンタンのたんじょうび	おおとも　やすおみ／作	偕成社	627	55
20	わたしのワンピース	にしまき　かやこ／　え・ぶん	こぐま社	618	66
				14,362	1,642

(2) 年間貸出上位タイトルが総貸出冊数に占める割合（平成 28 年度）

	上位50タイトル	上位100タイトル	上位1,000タイトル	上位5,000タイトル
一般書　年間総貸出数 1,292,603冊のうち	1%	2%	9%	21%
児童書　年間総貸出数 767,366冊のうち	4%	6%	26%	55%

(3) 年間貸出上位タイトルの複本冊数（平成 28 年度）

	上位50タイトル	上位100タイトル	上位1,000タイトル	上位5,000タイトル
一般書	1,088冊	2,003冊	10,916冊	31,332冊
児童書	3,168冊	5,320冊	24,873冊	69,147冊

(4) （一般書）予約件数上位 10 タイトルの予約件数と蔵書冊数の比較

	柏市	佐倉市	鎌倉市	大和市	八千代市	海老名市
人口	418,824	172,145	172,352	234,293	194,333	130,860
登録者	80,879	113,017	83,631	－	81,256	90,280
登録率	19.3%	65.7%	48.5%	－	41.8%	69.0%
予約件数	2,839	2,238	2,958	1,790	1,839	1,142
蔵書冊数	199	94	91	80	61	23

(5) タイトル別の蔵書冊数比較

タイトル	著者名	自治体名	岐阜市	富山市	海老名市	柏市	伊万里市	塩尻市	武雄市	瀬戸内市
		人口	410,473	417,472	132,298	423,787	55,246	66,975	49,179	37,511
		登録者数	226,900	104,744	90,280	80,879	41,949	38,514	29,498	－
蜜蜂と遠雷	恩田　陸		10	8	5	25	3	4	3	5
火花	又吉　直樹		2	17	6	23	1	5	5	1
コンビニ人間	村田　沙耶香		9	8	3	28	2	4	4	4
陸王	池井戸　潤		12	9	3	20	2	3	2	1
宝くじで1億円当たった人の末路	鈴木　信行		5	4	1	10	1	1	0	0
嫌われる勇気　自己啓発の源流「アドラー」の教え	岸見　一郎		8	5	1	18	1	2	1	3
AI vs. 教科書が読めない子どもたち	新井　紀子		3	3	0	6	1	1	1	1
未来の年表　人口減少日本でこれから起きること	河合　雅司		3	2	1	7	1	1	1	1
LIFE　SHIFT	リンダ・グラットン		2	2	1	7	0	1	0	1
サピエンス全史　上	ユヴァル・ノア・ハラリ		3	4	1	10	1	1	1	1
応仁の乱	呉座　勇一		4	5	1	12	1	1	0	1
はじめての人のための3000円投資生活	横山　光昭		3	2	2	7	0	1	0	1
どんなに体がかたい人でもペターッと開脚できるようになるすごい方法	Eiko		6	7	1	16	1	1	2	2
漫画　君たちはどう生きるか	吉野　源三郎		6	0	1	5	1	3	6	3
モデルが秘密にしたがる体幹リセットダイエット	佐久間　健一		5	2	1	6	1	1	1	1
しろくまちゃんのほっとけーき	わかやま　けん		23	32	7	72	13	19	1	5
はらぺこあおむし	エリック カール		34	31	8	61	26	14	10	6
ぴょーん	まつおか　たつひで		35	28	6	100	8	18	4	5
合計			173	169	49	433	64	81	42	42

※(4)と(5)は平成 30 年 5 月調べ

７．柏市立図書館資料収集方針（抜粋）

・図書館の蔵書は、基本的には市民の求めに応じて収集するべきものである。（1-(3)-②）

・リクエストの多い資料の複本購入に関しては、現時点では上限を柏市内全館で合計 20 冊とする。(2-(1)-②)

【運用】

・市民からのリクエストについては、可能な限り提供する。

・20 冊の根拠は、図書館数（18 館＋α）

・一般書についてはタイトル数を多く所蔵していく方向だが、読書欲求を低減しないよう、予約・リクエスト数に応じて 20 冊まで購入、30 冊まで寄贈を受付け、所蔵する。

・短く貴重な子ども時代に読む本の質を重要視する必要があるため、児童書については、数・多様性は問題としない。

・児童書については、子ども（その保護者）が読みたい（読んであげたい）という欲求を持った時に、なるべく早く提供することで、読書への関心を維持することができることから、来館時にすぐ手に取ってもらえるように、いわゆる定番の本（評価が定まっており、子どもへの提供を薦められる本）は、複本を多く持つ。

・児童書は、学校図書館や読み聞かせ団体などへの提供分としても、複本を確保する。

８．柏市立図書館寄贈資料に関する取扱い基準（抜粋）

・「収集方針」に準拠し、原則として出版後、5 年以内のものを受領する。（3-(1)）

・郷土に関する図書・古文書・パンフレット類・雑誌等は、出版年に関わらず受領することを原則とする。（3-(2)）

【運用】

＜寄贈資料の基本的な判断について＞

・予約数が所蔵数の 5 倍を超えている、かつ複本が 30 冊未満である。

・５倍の根拠は、予約の待ち時間を極力短くして、読書欲求の低減を防ぐため。

※貸出期間 2 週間を 5 人分待つと、2 ヶ月半が提供までの待ち時間となる。

＜その他＞

・一般書の寄贈図書は、汚損資料の入替、予約の多い資料の複本、予約はなくても書架にあれば必ず貸し出されるもの、欠本補充等で活用している。

９．書店からの図書購入について

⑴ 図書等納入仕様書より抜粋（3－①）

＜納入の条件＞

納入する図書は、別紙の柏市立図書館資料装備要件書のとおりの装備を施し定価で納入すること。

⑵ 購入業者選定基準より抜粋（3-(1)）

＜購入業者の選定＞

図書資料を取り扱う業者のうち、柏市に事業所又は店舗を有しているものであって、柏市の入札参加資格者名簿に登載されているもの。

柏市教育委員会　生涯学習部生涯学習課
〒 277-8503 千葉県柏市大島田 48 番地 1　沼南庁舎 3 階
電話： 04-7191-7393
柏市 HP　http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/280700/p046994.html
Facebook　https://www.facebook.com/kashiwa.futurelibrary/
Twitter　https://twitter.com/kashiwa_futurel